

明石城 ～2019年築城400周年～

明石城は、今から400年前、1619(元和5)年に、西国大名の抑えの城として、西国街道と明石海峡、水陸両方の交通の要衝地明石に、幕府の命を受け、明石藩初代藩主 小笠原忠政(後の忠真)によって築城されました。明石城は、「喜春城」「錦江城」とも呼ばれ、JR明石駅北側、駅ホームより間近に望めます。

城跡は国指定史跡(平成16年)、本丸跡に残る**坤櫓**(ひつじさるやぐら 左)と**巽櫓**(たつみやぐら 右)の2棟は、日本に12基しか現存しない三重櫓のうちの2つで国の**重要文化財(建造物)**に指定(昭和32年)されています。また、平成18年には日本城郭協会による「日本100名城」に選定されています。

坤櫓は、南西端に築かれた3層の隅櫓で、天守台はあるが天守閣が造られなかった明石城では最大の建物です。天守台のすぐ南にあり、天守閣にかわる役割を果たしたものと思われます。伏見城のものとも伝えられています。

巽櫓は、南東端に築かれた3層の櫓で、明石川河口の西側にあった船上(ふなげ)城から移築されたと伝えられています。坤櫓、巽櫓ともに、江戸時代初期の城郭建築の面影を伝える建築として貴重な文化財です。平成7年の阪神・淡路大震災により大きな被害を受けましたが、大規模な修復が行われ、その美しい姿がよみがえりました。櫓から東は明石海峡大橋、南は明石駅、淡路島が見えます。



明石城の特徴は**壮大な石垣**にもあります。高石垣は東西の幅が380m、三の丸からの高さが約20mの規模を誇ります。阪神・淡路大震災では全体の19%が被害を受けましたが見事に修復されました。なお、櫓下の石垣修復には城郭建築では初めてとなる曳家工法が用いられその後の工事に役立っています。

歴史小説で有名な**宮本武蔵**が造ったとされる**庭園**が明石城内にあったとされ、「明石城 武蔵の庭園」として整備されています。明石城主小笠原家に伝わる「清流話」の中に、初代城主小笠原忠政(後に忠真)の命を受けた宮本武蔵が明石城内に「樹木屋敷」(御茶屋、鞠の懸り、築山、滝などを設けた城主の遊興所。建物と庭園の総称)を造ったという記録があります。また、武蔵は明石城下の町割り(まちづくりの計画)を行ったともいわれています。

「あいたい兵庫 兵庫はお城、日本一」より

兵庫県には、**1000を超す城跡**があり、国内有数の城跡密集エリアとして知られています。世界遺産の「姫路城」を筆頭として**国指定史跡は22城**にのぼり、**全国最多**です。なぜ、これほどまでの**城大国**となったのでしょうか？理由として上げられるのは摂津・播磨・但馬・丹波・淡路の**五国**から成る**兵庫県**は、**律令時代の五畿七道**のうち、畿内から伸びる**山陽道・山陰道・南海道**が走る交通の結節点であり、**権力の中枢が集まった畿内と西国を結ぶ地**であったこと。その地の利を巡って**政権と絡む合戦**が起こり、**戦国時代**になると、**戦略上の要衝**としてこの地に多くの名城が築かれました。

明石川河口の西側にあった船上(ふなげ)城

明石城を築いた小笠原忠政が最初信濃松本より明石に国替えになった1617(元和3)年、明石川河口の西側にあった船上城に入り、明石藩が誕生しました。船上城は、明石城が新しく造られ、廃城となりました。

